

新任副部長紹介

■新任副部長



外科副部長
いけの よしのぶ
池野 嘉信

免許取得年/平成17年

肝胆膵手術およびロボット手術を専門としております。福井の医療のために誠心誠意努めてまいります。

— 主な資格 —

日本外科学会外科専門医・指導医
日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医・ロボット支援手術プロクター(胃・直腸)
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
日本肝臓学会肝臓専門医
日本ロボット外科学会専門医(RoboDoc)

行事予定

地域がん診療研修会(早期診断)

日時/令和5年3月3日(金) 18:30~19:30 ※オンライン開催

座長/福井赤十字病院 消化器センター長

山崎 幸直

内容/「尾道方式による

膵臓がん早期診断と化学療法」

講師/JA尾道総合病院 副院長

内視鏡センター長 花田 敬士 先生

炎症性腸疾患イブニングセミナー2023

日時/令和5年2月9日(木) 19:00~20:00 ※オンライン開催

座長/福田胃腸科外科 院長 福田 和則 先生

内容/「クローン病の基礎知識」

講師/福井赤十字病院 消化器内科部長

道上 学

片頭痛Webイブニングセミナー

日時/令和5年3月15日(水) 19:00~20:00 ※オンライン開催

座長/細川内科クリニック 院長 岡田 映子 先生

内容/「片頭痛」

講師/福井赤十字病院 神経内科副部長

早瀬 史子

開催報告

病診連携医会

令和4年度病診連携医会を11月16日(水)、ザ・グランコアーズフクイにて開催いたしました。集合形式での開催は、新型コロナウイルス感染拡大防止の都合上3年ぶりでしたが、院外53名、院内34名、計87名の先生方にご参加いただき、2題の話題提供と、当院の現状報告として新任医師の紹介などをさせていただきました。

話題提供1/「膠原病内科外来への紹介基準案と専門診療」
腎臓・泌尿器科副部長 鈴木康倫

話題提供2/「福井県初!嗅覚専門外来の近況報告」
耳鼻咽喉科部長 大澤陽子

中締めでは、病診連携医会副会長 福井温泉病院院長 辻哲雄先生より、コロナ禍における患者受入れ体制や、医療連携への思いとともに、当院への労いのお言葉も頂戴し、企画した我々も辻先生をはじめ参加いただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その後のマスク懇談では、初めてご参加の先生を含め久しぶりに交流いただき、本来の理想の形である顔を合わせての交流の再来に、皆様の笑顔がとても印象的でした。

ご参加いただいた先生方におかれましては、盛会に無事終了したことに心からお礼申し上げます。また都合によりご参加いただけなかった先生方におかれましては、このような機会を今後とも案内させていただきますので、是非ともご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

この会を機に、また気を引き締めてより良い医療連携に取り組んでまいります。



Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.079

令和5年1月発行



「雪降る朝に」撮影/写真部 リハビリテーション科部 黒田 圭太

新年のご挨拶 令和5年 元旦

新年明けましておめでとうございます。連携の先生方には穏やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年も福島県沖地震、全国各地で起きた線状降水帯による水害、台風による風水害など日本各地で起きた自然災害により、多くの方々が被災されました。当院からも、8月に南越前町に救護班を派遣いたしました。災害拠点病院として、コロナ禍での災害対策の必要性を感じた1年でした。当院の使命として、コロナ禍の中で発生した大規模災害、及び原子力災害などによる複合災害を想定した防災訓練を、今後も継続的に実施していきます。

引き続き感染症指定医療機関としてコロナ対応に全力であたっていきますが、地域医療支援病院として、先生方との医療連携を更に深め、地域のニーズに今後も応えてまいります。今年度より、新たな中期ビジョン「地域社会に貢献し、県

民から選ばれる病院になる」という目標を掲げました。目標に沿うべく、昨年は嗅覚外来、膠原病外来、脳卒中相談窓口を新たに開設いたしました。また、ダヴィンチXiを用いた肝胆膵外科手術や婦人科内視鏡手術など、今後も低侵襲外科治療を積極的に推進していきます。

本年も職員一同、地域全体の医療の質向上に貢献できるよう努めてまいります。今後もお一層のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。結びに、皆様の益々のご発展を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



院長 高木 治樹

+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間/平日 8:00~18:30、土曜 8:30~12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)

 福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第79号発行 令和5年1月 福井赤十字病院



難治がん 「膵がん」に挑む!

福井赤十字病院 外科部



日本における膵がんの罹患数、死亡者数はともに増加傾向にあり、国立がん研究センターのデータでは、2021年はがん死亡原因の第4位¹⁾となっています。2019年の膵がん罹患数43,865人、2020年の死亡者数37,677人²⁾であり、死亡者数/罹患数比は0.86です。前立腺がんでは0.13、乳がん0.16、大腸がん0.3であることから、膵がんは発生数と死亡者数が近似し、未だに難治がんであることがわかります。難治がんである膵がんに対して当院では消化器センターおよびがん診療センターが中心となって、One Teamで集学的治療を行っています。

当院の膵がん治療3つの強み

① 最新の薬物治療

膵がんに対する薬物治療は近年大きく変化し、治療選択肢も増えました。切除可能や切除可能境界の腫瘍に対して術前化学療法(ジェムシタピン+エスワン(商品名))を行い、術後はエスワン内服で再発を予防することで術後成績も向上しています。進行・再発症例に対しては、FOLFIRINOX(フルオロウラシル+レボホリナート+オキサリプラチン+イリノテカン併用)治療やGnP(ジェムシタピン+ナブパクリタキセル併用)治療を行い、長期生存例や手術可能となる症例も経験するようになりました。

標準治療で効果が得られない症例に対しては、京都大学と連携し、がんゲノム医療として変異遺伝子を検索し治療薬を選択しています(当院は厚生労働省からがんゲノム医療連携病院に選定されています)。

② 精度の高い放射線治療

膵臓は腹部深部に位置し、かつ周囲に重要な臓器・血管・神経が存在しています。膵がんは周囲に浸潤する傾向が強く、局所進行症例に対しては根治性と臓器温存のため、高精度な放射線照射が求められます。当院では、Vero4DRTやVital Beemという高精度放射線治療装置を導入しており、身体への負担を軽減し、より効果的な治療が可能です。

③ あきらめない外科治療/低侵襲な外科治療

上記①や②を組み合わせた集学的治療を行い、手術によって根治を目指します。患者さん一人ひとりで解剖・膵臓の状態・病巣の進展が異なるため膵がん手術は技術と経験を要します。当院は、以前より肝胆膵手術に力を入れており、肝胆膵外科学会の修練施設に認定されています。この修練施設は、他施設に比べ高難度手術の術後成績が良いというデータ(NCD)³⁾が出ています。当院には肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医(池野)、高度技能指導医(土居)、名誉指導医(広瀬)の3名が在籍し、福井県随一の体制が整っており、膵がん手術を適切に施行し根治を目指しています。

当院では手術支援ロボット(da Vinci Xi)が稼働中であり、十分なロボット支援手術経験を積んだ池野が着任したことにより、膵がんに対してもロボットによる低侵襲手術を提供できる環境が整備されております。手振れがなく多関節機能を有した鉗子と、安定した視野で手術可能なロボット支援手術は、条件を満たした膵がん手術に効果的な治療法です。⁴⁾

患者さんに「福井日赤で手術を受けてよかった」、ご家族・ご紹介医に「診てもらってよかった」と思ってもらえるように患者さん一人ひとりに適切な治療を提供いたします。

膵がん根治の鍵は、やはり早期発見です。普段から身近で患者さんを診ておられる先生方におかれましては、何か所見(黄疸、腹痛など膵炎症状、急な血糖変動、腫瘍マーカー上昇、食欲減少など)が少しでもあれば、当院にご紹介いただけましたら幸いです。

ご紹介いただく大切な患者さんにあった治療を行い、再び先生方の外来に通院していただけるように努力して参りますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



1) 国立がん研究センター がん統計 (https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)

1. 最新がん統計のまとめ/がん死亡数の順位(2021年)

2) 国立がん研究センター がん統計 集計表ダウンロード (https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html)

2. 罹患/1) 全国がん登録/ 全国がん罹患データ(2016年~2019年)cancer_incidenceNCR(2016-2019).xls(633KB)

1. 死亡/全国がん死亡データ(1958年~2021年)pref_CancerSite_mortalityASR75(1995-2021).xls(3,102KB)

3) NCD(National Clinical Database)の情報を基にした論文

Mortality, morbidity, and failure to rescue in hepatopancreatoduodenectomy:

An analysis of patients registered in the National Clinical Database in Japan. Itaru Endo et al.

J hepatobiliary Pancreat Sci. 2021;28:305-316.

4) ロボット支援手術では、先端に多関節があり自由に曲げることができる鉗子を用いて、外科医が操作ブースに座って操ることによって、よりスムーズに手術を行うことが可能です。カメラ映像は3次元・高解像度であり従来の腹腔鏡よりも奥行きや立体感がつかみやすくなっています。また操作鉗子には手ブレを補正する機能が付いているため、より精緻な手術が可能です。

～肝胆膵外科学会高度技能専門医と修練施設とは～

日本肝胆膵外科学会は、難易度が高い肝胆膵外科手術を安全かつ確実に施行できる外科医を育てるため、2008年より高度技能専門医制度を設立しました。資格を得るためには、外科専門医さらに消化器外科専門を取得し、カリキュラムに沿って修練施設で経験を積み、厳正な審査をされます。

修練施設とは、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設に認定されている中で、高度技能専門医または高度技能指導医が1名以上常勤し、高難度肝胆膵外科手術を一定数以上行っている病院が認定されます。



日本肝胆膵外科学会 HPより